



よりよく、人生を生ききるために…
 ～元気なときから、「その日」のことを考える～

みなさんは、人生の最期までの時間をどこでどのように過ごし、どのような医療を受けたいか、考えてみたことがありますか？

人生の最期を病院や施設などで迎えたい人もいれば、住み慣れた家で迎えたい人もいます。最新の医療技術によって、延命治療を望む人もいれば、自然死を望む人もいます。

第8期介護保険事業計画の策定にあたり、65歳以上の無作為に選ばれた4千人の調査では、「将来、介護が必要になった時に、どこで暮らしたいか」の問いに、45・8%が「自宅」と答えています。その際に利用したいサービスで、一番多かったのが在宅医療でした。

在宅医療でした。

一方で、在宅で介護サービスを利用している400人の調査からは、訪問診療を利用している割合が前回調査時18・5%から9・8%と大きく減少していることがわかりました。通院できるうちは、診療環境が整っている医療機関で受診を続けることが重要ですが、もしも「通院できなくなったらどうするか」を元気なときから主治医と相談しておくことが、「その日」を安心して迎えるために大事なことだと考えます。

「その日」を迎えるまでのことについて、一度、家族や身近な人と話し合ってみませんか。



今年もやります！

在宅医療普及講演会
 私たちのまちで最期まで
 「2020年 コロナの時代を
 生き抜くために 新・人生会議」

- 講師 ふじ内科クリニック院長 内藤いずみ 氏
- とき 11月29日(日) 午後1時30分～3時30分
- ところ 市民ふれあいセンター 多目的ホール
- 入場料 無料

※恒例となった村上地域の在宅医療に携わる職員が熱演する劇も行います！

●問い合わせ

介護高齢課地域包括支援センター
 ☎53-2111 (内線3432)



山辺里地区文化祭芸能発表

▲「大好き・さべり」をみんなで大合唱



▲山紫水明、自然あふれる環境が自慢です

郷土を愛する心、これまでも、これからも

山辺里地区まちづくり協議会では、「大好き・さべり」でひろがる和」をコンセプトに、山辺里地区で暮らす人が幸せを感じる地域づくりを進めています。

理想の将来像に向けた取り組みを形として後世に継続していくために、「歌でつながるさべり」を合言葉に山辺里地区のイメージソング「大好き・さべり」を平成25年に作りました。この歌により郷土を愛する心が、次の世代にも引き継がれていくものと思っています。また、集落の伝統的な民俗行事や歴史遺産、空から見た地域を資料として編さんしてきたことは、郷土を理解するうえでかけがえのない財産となりました。

これからも、清らかな川が流れ、美しい田園風景が広がる自然にあふれた故郷を大切に、山辺里地区を今よりもさらに住みよい地域にするために、さまざまな地域課題に知恵を出し合い取り組んでいきます。

●問い合わせ

自治振興課自治振興室
 ☎53・2111 (内線5111)



まちづくり協議会通信 No.7
 ～山辺里地区まちづくり協議会～



市HP関連ページ